

# 令和3年度 本宮市総合教育会議

生きる力(学力・人間性・健康体力)を育むために  
求められる今般の教育環境について

令和3年11月22日(月)

# 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、  
協働的な学びの実現～（答申）

令和3年1月26日  
中央教育審議会

教育は未来である

# 今般の教育を取り巻く環境

人工知能の進化

少子高齢化

環境問題

グローバル化

異常気象

未知の感染症

予測困難な時代

# 長期にわたった臨時休業から 再認識できた学校の役割

学習の機会と学力の保障の役割

人としての発達・成長を保障する役割

身体的・精神的な健康を保障する福祉的な役割

# 直面する学校教育の課題

## 子供たちの多様化

6.5%程度の割合で発達障害の可能性のある児童生徒が通常学級に在籍  
18歳未満の子供の相対的貧困率は13.5%  
いじめの認知件数、不登校、暴力行為、自殺、児童相談所案件

## 情報化の加速度的な進展への対応の遅れ

## 学習意欲の低下

## 教師の長時間勤務、業務拡大による疲弊

家庭、地域の役割を一手に背負う  
勤務時間外、土日関係なしの部活動

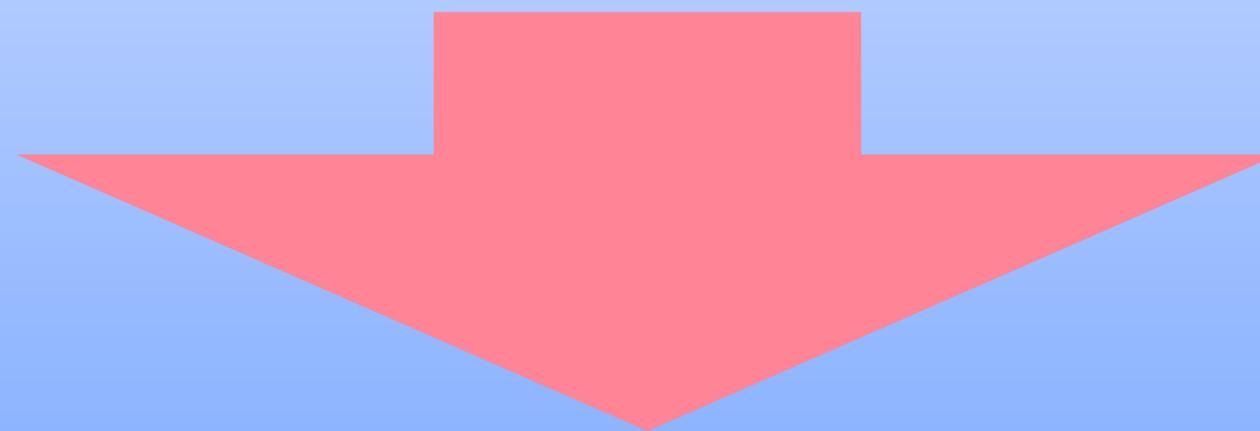
※福島県 令和4年度教員採用試験倍率1.6倍【小学校】(昨年度1.8倍)

日本型学校教育を  
維持していくのは困難

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

学校における働き方改革

GIGAスクール構想



新学習指導要領を着実に実施

# 学校における働き方改革

校務の見直し、業務の精選、地域人材の活用等

各支援員の充実(ICT、特別支援教育、部活動)

専門スタッフの充実(SSW、SC、SSS)

部活動改革(令和5年度から段階的に)

## I 休日の部活動の段階的な地域移行

- ・休日の指導や大会への引率を担う地域人材の確保
- ・保護者による費用負担、自治体による減免措置等

## II 合理的で効率的な部活動の推進

- ・合同部活動の推進
- ・地方大会のあり方の整理

# GIGAスクール構想

1人1台の端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備



特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人残すことなく、公正に個別最適化され、資質能力が一層確実に育成できるICT環境の実現

# 子供の学びや教職員を支える教育環境

ICTの充実(タブレット等)      地域連携(CS)  
読書環境の整備  
働き方改革      部活動改革(中学校)



教職を志す若者の増加、学力向上、不登校減少等

# 今後の方向性

校長を中心に学校組織のマネジメント力の強化が図られ、自主的・自立的な取組を進める学校を積極的に支援し、社会の変化に素早く的確に対応するための教育委員会の在り方、特に、教育委員会事務局の更なる機能強化や、首長部局との連携の促進、外部人材の活用などをはじめとする社会との連携等を含む教育行政の推進体制の在り方

# 資料 1

## 小中教員の超過勤務時間(本宮市)

福島県目標 月「80時間0%」かつ「45時間1/3以下」

### 月45時間超(本宮市)

	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
4月	82人	70.0%	46人	61%
5月	76人	55.9%	33人	45.2%
6月	61人	56.0%	45人	58.4%

### 月80時間超(本宮市)

	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
4月	9人	7.6%	8人	10.8%
5月	3人	3.3%	3人	4.1%
6月	4人	3.2%	6人	7.7%

## 資料 2

### 正規時間外で最も時間を割いた業務(福島県)

	小学校	中学校
1	授業準備	部活動
2	成績処理	成績処理
3	学年・学級経営	授業準備
4	学校運営	学年・学級経営
5	その他の業務	その他の業務

※持ち帰り業務も概ねこの内容

## 資料 3

# コミュニティ・スクールの成果と課題(本宮市)

## 成果

回答:本宮二中学区3校(2年目)、本宮一中学区3校(1年目)

- 学校・家庭・地域が目標を共有できた。  
※登下校時の安全確保、学習(水泳、校外、稲作体験等、職場体験等)学校行事への支援等
- 学校教育活動の現状や課題を地域や保護者と共有できた。  
※部活動再編
- 学校づくり、児童への指導に向けた関心の高まりが見られた。
- 学校だけでは思いつかない提案をいただけた。
- 地域が学校に協力的になり特色ある学校づくりが進んだ。

## 資料 4

# コミュニティ・スクールの成果と課題(本宮市)

## 課題

回答:本宮二中学区3校(2年目)、本宮一中学区3校(1年目)

- 学校運営協議会での熟議の結果を受けて、保護者や地域と同一歩調で子供に関わっていけるような方策
- 学校独自のCSコーディネーター(地域の方)の育成と学校への配置
- 学校運営協議会の意義について地域や保護者への周知
- 学校独自の予算

※委員謝礼、活動費、印刷経費(紙、カラーインク)等

- 連絡調整、協議会の運営等事務局校(学校)の多忙感の増加
- 学校への要望が多く、学校の方針との意見相違から対応に苦慮